

湖国など64人 陶芸や絵画928点

障害者芸術パリデビュー

滋賀県などに住む知的・精神障害のある人らの美術作品展が、パリで来年開かれる。日本の障害者芸術が、美術の専門教育を受けていない人の「アール・ブリュット(生の芸術)」として芸術の都でデビューすることになり、作家と作品を仏側に紹介した滋賀県社会福祉事業団は「本人や家族の自信につながる」と喜んでいる。



「アール・ブリュット・ジャポネ展」で展示される澤田真一さんの陶芸作品＝滋賀県社会福祉事業団提供

パリ市立アル・サン・ピエール美術館で来年3月から9月まで開かれる「アール・ブリュット・ジャポネ展」。草津市の澤田真一さん(27)ら滋賀県の17人を含む20都道府県64人の計928点が展示される。陶芸や絵画が中心だが、いずれも既成概念にとらわれない自由な表現で強烈な印象を与える。同事業団は2003年に美術館「ボーダレス・ア

県社福事業団中心に「自信につながる」来年3月から作品展

「アール・ブリュット・ジャポネ展」を開くアル・サン・ピエール美術館＝滋賀県社会福祉事業団提供



て作品の発掘を進めてきた。

今回は、同事業団と連携している美術館「アール・ブリュット・コレクション」(スイス・ローザンヌ市)の日本人アール・ブリュット展を見たアル・サン・ピエール美術館長が、自館での展示会開催を同事業団に申し出て実現した。

同事業団の斎藤誠一(自立生活支援員)は「パリで展示会が開かれることで、本人や家族の自信につながる。国際的に注目される作家が出るかもしれない」と期待している。

(北島寛之)

アール・ブリュット 既成の美術教育や流意。英語で「アウトサイダーアート」とも称される。知的・精神障害のある人の作品が多い。